

第30回関西障がい学生支援担当者懇談会（2023年3月10日開催）

【アンケート集計結果】

1～4はKSSK開催前の申込時にアンケートを実施（出席人数59名※うち分科会出席者57名）、5～10はKSSK開催後にアンケートを実施（回答人数39名※回収率66.1%）

1-1 所属大学

大学コンソーシアム京都加盟大学

大学名	人数
京都大学	2
京都府立大学	1
大谷大学	2
京都外国語大学	4
京都産業大学	1
京都女子大学	2
京都精華大学	2
京都先端科学大学	1
京都橘大学	2
京都文教大学	2
京都文教短期大学	1
同志社大学	4
同志社女子大学	1
佛教大学	2
龍谷大学	1
合計	28

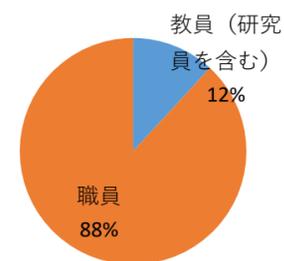
大学コンソーシアム京都非加盟大学

大学名	人数
滋賀大学	1
長浜バイオ大学	1
大阪大学	3
大阪公立大学	4
桃山学院大学	3
阪南大学	1
四天王寺大学	1
大阪電気通信大学	2
関西大学	1
大阪産業大学	1
大阪人間科学大学	1
大阪大谷大学	1
関西学院大学	2
神戸松蔭女子学院大学	2
神戸学院大学	1
武庫川女子大学	2
神戸女子大学	2
奈良学園大学	1
奈良大学	1
合計	31

1-2 区分

No	選択肢	人数	%
1	教員（研究員を含む）	7	11.9
2	職員	52	88.1
	合計	59	100.0

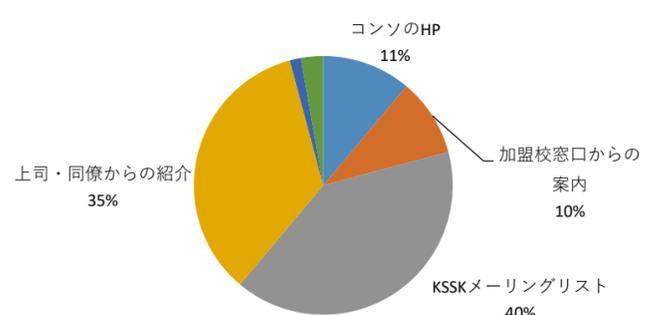
1-2 区分



2. 今回の講座をどこで（何で）知りましたか？（複数回答可）

No	選択肢	人数	%
1	大学コンソーシアム京都のホームページ	8	11.1
2	加盟校窓口担当者からの案内	7	9.7
3	KSSKメーリングリスト	29	40.3
4	上司・同僚からの紹介	25	34.7
5	知り合いからの紹介	1	1.4
6	その他	2	2.8
	合計	72	100.0

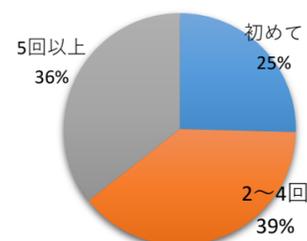
2. 今回の講座をどこで（何で）知りましたか？



3. KSSKは何回目の参加でしたか？

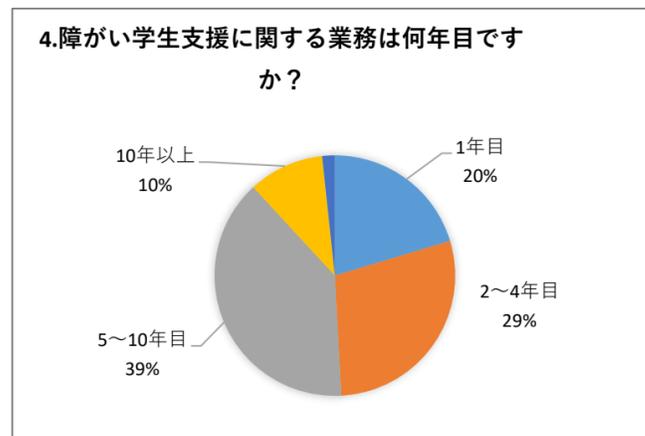
No	選択肢	人数	%
1	初めて	15	25.4
2	2～4回	23	39.0
3	5回以上	21	35.6
4	無回答	0	0.0
	合計	59	100.0

3. KSSKは何回目の参加でしたか？



4. 障がい学生支援に関する業務経験は何年目ですか？

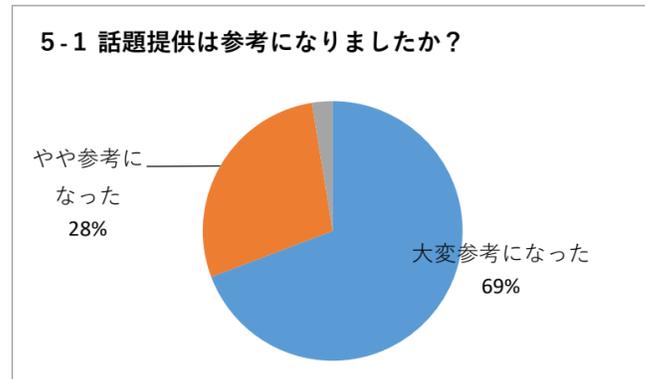
No	選択肢	人数	%
1	1年目	12	20.3
2	2～4年	17	28.8
3	5～10年未満	23	39.0
4	10年以上	6	10.2
5	経験なし	1	1.7
6	無回答	0	0.0
合計		59	100.0



5. 話題提供について

5-1 話題提供は参考になりましたか？

No	選択肢	人数	%
1	大変参考になった	27	69.2
2	やや参考になった	11	28.2
3	どちらでもない	1	2.6
4	あまり参考にならなかった	0	0.0
5	まったく参考にならなかった	0	0.0
合計		39	100.0



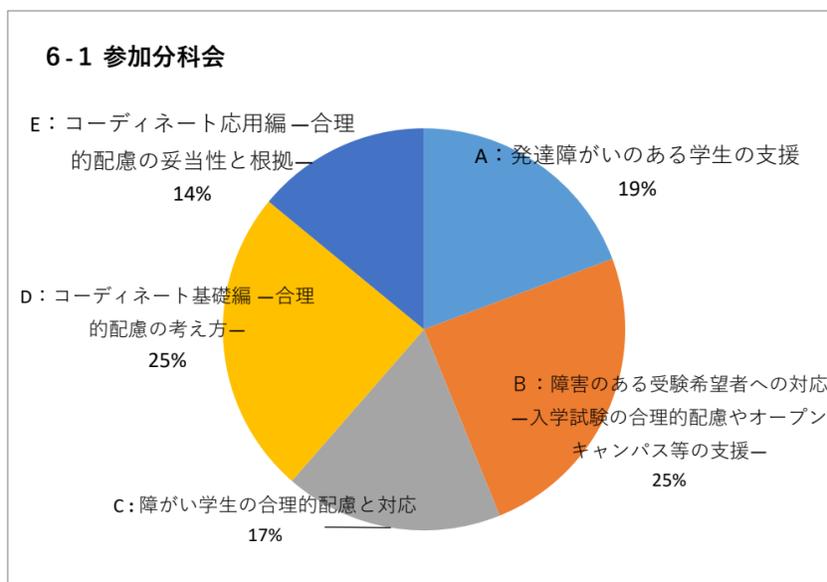
5-2 上記5-1の回答を選択された理由をご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	回答内容	理由
1	大変参考になった	色々なとり組み方、ツールなどをご紹介頂き参考になりました
2	大変参考になった	ヒューマンエンパワーメント推進局の取り組みや、ニューロダイバーシティの考え方に刺激を頂きました。
3	大変参考になった	他大学にも利用可能なコンテンツを示していただき、また、オンラインを合理的配慮とすることについても示唆をいただけたことは大変勉強になりました。
4	大変参考になった	大学内に限らず地域のリソースを活用している取り組みが参考になりました
5	大変参考になった	事例が本学での改善に繋がると感じた
6	大変参考になった	情報を得る手段が今までなかった為、（学外との繋がりが全く無かった）非常にありがたく思いました。
7	大変参考になった	RADDの活動は知っていたが、今後の取り組みを知ることができた。
8	大変参考になった	発達障がいのある学生が増加している中で、支援リソースが足りないと感じている日々を送っています。その様な時期にぴったりの研修内容で大変助かりました。
9	大変参考になった	コンパクトに話をまとめていただき、分かりやすかったです。一度現場でどうされているのかを見たいと思いました。
10	大変参考になった	ニューロダイバーシティという考え方が参考になりました。
11	大変参考になった	これから支援室体制を整えていかないといけないので、とても参考になりました。
12	大変参考になった	発達障害学生支援から多様な発達特性を有する学生支援という考え方への変化と取り組みに共感し、役立てていきたいと感じたため。
13	やや参考になった	少し話のペースが速く、もう少しゆっくり聞きたかった。
14	やや参考になった	在職する大学は、発達障害に対する基本的な理解を啓発する段階にあると考えており、様々なツール等、活用を検討しながら、基本的な理解啓発をすすめたいと考えたので。
15	大変参考になった	ニューロダイバーシティの考え方は重要であると思われた。無償でトライアル利用できるツールについて紹介していただけたのがよかった。
16	大変参考になった	「障がいのある学生」というカテゴリーをなくして「個々の学生の特徴に寄り添う」という考えに基づく全学的な取組をご紹介いただき、大変参考になりました。
17	大変参考になった	日頃、携わっているのは身体障害におけるところですので、発達障害支援の内容や筑波大学様の学生支援をお聞かせいただき、非常に貴重な機会となりました。
18	大変参考になった	発達障がい学生のさまざまな支援モデルについて初めてお聞きすることができた。
19	どちらでもない	本学との支援レベルの違いが顕著で「すごい」と感じましたが、具体的に何をどのように参考にしていくことが望ましいのかについてはあまりイメージできませんでした。

6. 分科会について

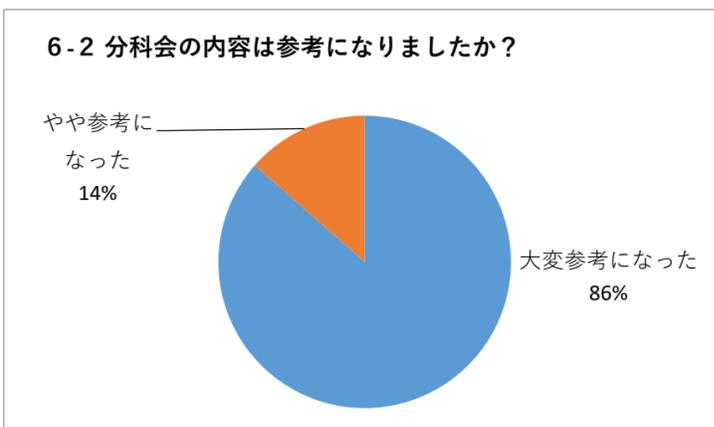
6-1 参加分科会（アンケートではなく受付名簿より算出）

No	選択肢	人数	%
1	A：発達障がいのある学生の支援	11	19.3
2	B：精神障がいのある学生の修学支援	14	24.6
3	C：支援体制・システムのマネジメント	10	17.5
4	D：コーディネート基礎編—合理的配慮の考え方—	14	24.6
5	E：コーディネート応用編—合理的配慮の妥当性と根拠—	8	14.0
	合計	57	100.0



6-2 分科会の内容は参考になりましたか？

No	選択肢	人数	%
1	大変参考になった	32	84.2
2	やや参考になった	5	13.2
3	どちらでもない	1	2.6
4	あまり参考にならなかった	0	0.0
5	まったく参考にならなかった	0	0.0
	合計	38	100.0



6-3 上記6-2の回答を選択された理由をご記入ください。

◆『A：発達障がいのある学生の支援』

No	回答	記述
1	大変参考になった	現場の悩みを共有できたのが良かったです。
2	大変参考になった	自分の大学と同じような状況や悩みもあれば、まだ起きていない問題もわかることができ、大変参考になりました。
3	大変参考になった	他大学の取り組みがわかった。
4	大変参考になった	他大学での取り組みについて、参考になる情報を伺えたため
5	大変参考になった	各大学の取組を、具体的な点・悩んでいる点も含めてお話しいただいたので。
6	やや参考になった	他大と情報交換でき、ざっくばらんに話すことができ、何よりも心強かった。

◆『B：精神障がいのある学生の修学支援—』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	様々な大学での実践や課題を共有いただき、共感しつつ学べましたし、励まされる時となりました。
2	大変参考になった	精神障がい学生の修学支援を通じて合理的配慮の考え方について整理することができました。また、オンライン受講の配慮について意見交換する中で大学組織としての対応についても考える機会となり、とても収穫の多い時間を過ごすことができました。
3	大変参考になった	自分は学生相談室インターカーがメインの仕事で、コーディネーターとして実践をしているわけではなく、支援の考え方に戸惑うことがあったのですが、そのことについて話をすることができ、とても励まされました。（分科会の参加そのものを通して）その場に参加できる、コミュニケーションをとることができる（それが力になる）という実感を持ってました。
4	大変参考になった	本学の課題である配慮申請のフローについて、事例を基に各大学の違いや実情、ルールや慣習もバリアになると考え方を知ることが出来た。また、精神障害のある学生の出席配慮としてのオンライン受講については、事前的改善措置や教育的配慮とが入り混じっているため判断が難しいところがあるが、基本的には他の合理的配慮と一緒に考え方で構わないということを知ることが出来た。知識も経験も足りず、会の進行についていくことで精一杯だったのが正直な気持ちだが、たくさんの学びを頂けたことに感謝している。
5	大変参考になった	他大学の話が聞けてとてもおもしろかったです。必要性和妥当性の観点やオンライン受講のチェックリストなど、たくさんお土産をもらえました。

◆『C：支援体制・システムのマネジメント』

No	回答	記述
1	大変参考になった	他大学の支援の制度設計や課題が伺え、改めて自大学の課題を認識できました。障害のある当事者学生の側にいる職員として、大学組織に対して支援の必要性をあらためて訴えていくエネルギーを頂きました。
2	大変参考になった	学生サポーター制度を確立するための予算が確保できずに困っていました。本学学長の意見として予算を確保することは過剰な負担になるという理由で却下されています。それについて、皆さん親身になってご意見いただけました。それが一番の力になりました。
3	大変参考になった	他大学の支援体制・マネジメントの状況を知ることができた為
4	大変参考になった	他大学の支援に関する資料をいただけたことや、対面で他大学の方と知り合えたこと等
5	どちらでもない	他大学の体制について伺うことが出来たが、自大学に生じている問題について参考になる話を伺うことができなかったため。
6	大変参考になった	各大学の状況を知ることができた。

◆『D：コーディネート基礎編 —合理的配慮の考え方—』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	やや参考になった	本学の配慮学生はほとんどが発達障がい、しかも人数が多いので、近しい状況のお話がもう少し聞けたらと思いました。
2	大変参考になった	レクチャーだけではなく他大学の状況も聞くことができ、参考になりました。名刺交換の時間もとっていただきありがとうございました。
3	大変参考になった	各大学の具体的な取り組みや対応例を知ることができて良かったです。
4	大変参考になった	他大学の実情を伺う機会となり、本学の支援に活用できそうな話もあり、メリットが多かった
5	大変参考になった	分科会に分かれており、配属後間もない私にとって、必要なことを多く学ぶことができました。
6	大変参考になった	今回参加されていました他大学の皆様は、様々なお立場で業務に携わられている印象で、様々な観点からの意見交換ができましたこと、有意義な時間でした。
7	大変参考になった	合理的配慮をどのように決めるかという基準を見直すことができました。

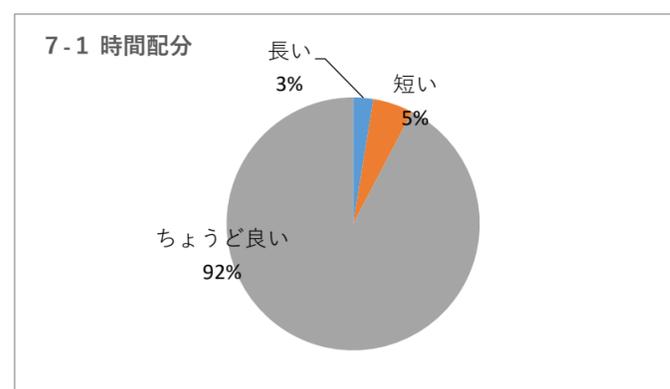
◆『E：コーディネート応用編 —合理的配慮の妥当性と根拠—』

No	回答	記述
1	大変参考になった	それぞれのご経験と立場から、アドバイスや事例を聞けたから。
2	大変参考になった	どう落とし所を持っていくか、その案や方法をディスカッションできて有益でした。
3	大変参考になった	各大学での取り組みを聞きながら、本学の状況の整理をすることができた。

7. 懇談会全体について

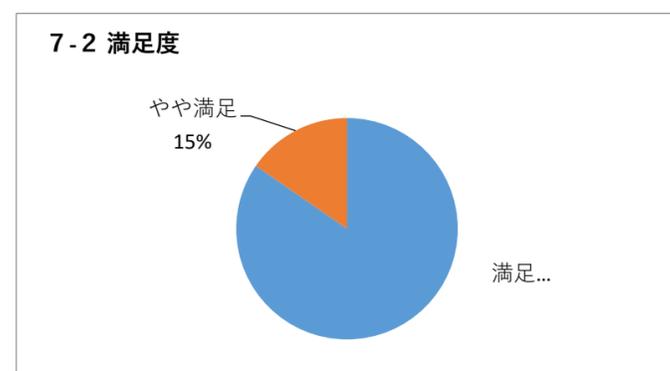
7-1 時間配分

No	選択肢	人数	%
1	長い	1	2.6
2	短い	2	5.1
3	ちょうど良い	36	92.3
4	その他	0	0.0
5	無回答	0	0.0
合計		39	100.0



7-2 満足度

No	選択肢	人数	%
1	満足	33	84.6
2	やや満足	6	15.4
3	どちらでもない	0	0.0
4	やや不満	0	0.0
5	不満	0	0.0
合計		39	100.0



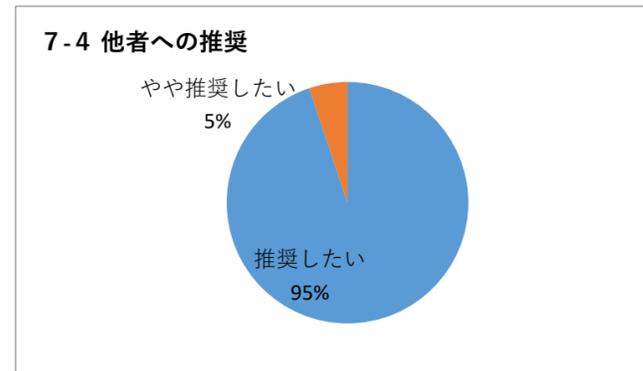
7-3 上記7-2の回答を選択された理由をご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	満足	参加者の姿勢が前向きでとても充実した時間となりました。
2	満足	かなり情報共有しやすい環境を作っておいて、とても良かったので選択しました。
3	満足	たっぷり懇談でき、終了後に名刺交換をとおして繋がれたから。
4	満足	業務を見直す機会となった
5	満足	初心者研修を選択させていただきましたが、グループディスカッション形式にいただき、2時間が短く感じられるほど充実しておりました。他大学でも保護者対応にご苦労されていると分かり、保護者に打ちのめされた時は、私だけじゃないと考えることができそうです。
6	やや満足	色々な方とお話が出来、初心者の私にとっては、とても良かったです。
7	満足	十分に意見交換ができたように思った。
8	満足	障害学生支援者の仲間の繋がりが出来たのが一番だと思います。
9	満足	他には無い機会なので、今後とも開催のほどぜひよろしくお願いいたします。
10	やや満足	他大学の実務担当者とのつながりができた為
11	やや満足	対面での開催では、担当者同士の深い話ができるため。
12	満足	初めての参加でしたが、多くの方と交流でき良かったです。
13	満足	他大学の方々とお話しでき、励まされ、ほっとする時間でもあり、自分の取り組みを振り返ることができたため。
14	満足	分科会の中での話し合い、また、終了後の懇親会の時間で、多くの方をご紹介いただき、この事はどなたが強い、など、横の繋がりを築ききっかけをいただいたことに、感謝しております。ありがとうございました。
15	満足	各大学ごとに体制や風土など異なるが、課題としては共通することが多く、直接顔を拝見しながら考えを共有できる貴重な場だと感じた。また、日ごとにアップデートされる障害学生支援について触れることで、一度立ち止まり自身の考え方を振り返るよい機会になった。
16	満足	同じ立場で支援・コーディネートされている皆さまのお話を聞き、共通点や参考にしたい点などを学べるので。

No	回答	記述
17	満足	私自身、大学で障害学生支援の仕事をしてもらってから初めて対面での場に参加させていただくことが叶いました。オンライン開催時と比べて、お話の内容や発言量が大幅に違い、非常に学ぶことが多くありました。
18	満足	資料の投影や事前回答フォームの要点をまとめるなど分かりやすくし、大学間の横のつながりを深めるためのグループディスカッションもあったため。

7-4 他者への推奨

	選択肢	人数	%
1	推奨したい	37	94.9
2	やや推奨したい	2	5.1
3	どちらでもない	0	0.0
4	あまり推奨したくない	0	0.0
5	推奨したくない	0	0.0
6	やや推奨したい	0	0.0
	合計	39	100.0



8. 今後、懇談会で取り上げてほしいテーマ、内容等があればご記入ください。(記述内容一部抜粋)

No	内容
1	留学生、知的障がいのある学生の支援
2	知的障がいの方への大学としての支援について
3	合理的配慮文書作成におけるポイント (障害種別)
4	発達障がい学生対応、支援について。 (今回もありましたが、専門職的な気がして心理士資格がないので敷居が高く感じたので、初歩的な部門もあれば有難いと思いました)
5	発達障がいをもつ学生の方への対応として、スケジュール管理など具体的なトレーニングを実施されてこられたコーディネーターの方の体験談を伺いたいです。
6	紛争対立に関して
7	障害学生と防災
8	合理的配慮 (申出～建設的対話・共通理解～合意形成～合理的配慮の提供) のフローの大学間 (横) 比較
9	各大学での取り組みの成功例や失敗例を知れたらうれしいです。
10	入学前からの具体的な支援
11	精神障がいのある学生の修学支援について、今回学びましたが、引き続きまた、このテーマで意見交換をしたいと感じます。治療可能性について、支援の申し出の時期について、オンライン受講についてなど、もっとお話を伺いたい、話し合いたいと思うことがありました。
12	障がい学生等の要配慮学生を対象に各校で実施されているプログラム (SST、交流、居場所など) について教えていただける分科会があると有り難いです。
13	コーディネーターが基本的な知識や技能等
14	身体障害の事例、合理的配慮の内容について
15	学内の支援室の作り方について、土台作りを当てるような講座? など受けてみたい。支援以前に体制が整っていないため。
16	今回と同テーマでもよい。 具体的な事例を取りあげて、合理的配慮提供までの一連の流れを、グループで考える時間があってもよいのではないかと思います。
17	事例検討、グループワーク(ワールドカフェなど)、障がい理解(身体の機能、難病含め)、アセスメントの取り方